



大崎耕土GIAHSを核とした 持続可能な地域社会づくり



宮城県大崎市



提案者：宮城県大崎市



大崎市の概要

宝の都（くに）おおさき・宮城県大崎市



市の概要

将来像：宝の都（くに）おおさき

位置：宮城県の北西部
人口：127,581人（2021年4月1日現在）
総面積：796.81 km²

自然・観光資源

①ラムサール条約登録湿地：「蕪栗沼・周辺水田(2005年登録)」、「化女沼(2008年登録)」, 主にガン類の越冬地として登録。特に、「蕪栗沼・周辺水田」は世界で初めて名称に水田を明記し、水田が湿地であることを提唱し、世界に認められた。また、マガンは市の鳥となっている。



市の鳥「マガン」

②FAO・世界農業遺産「大崎耕土」：本市を含む大崎地域1市4町をエリアとする「大崎耕土」の農業を基盤とした暮らし、文化、生物多様性が認められ、東北・北海道初の世界農業遺産に認定。

③国民保養温泉地「鳴子温泉郷」：国内にある11泉種のうち9種類の源泉を有し、国民保養温泉地に指定



取り組む課題



経済
経済活性化・所得向上



社会
人のつながり



環境
赤とんぼ

少子高齢化
農地の減少
農業の就業減少

食・農、森林・河川・湖沼・田畑を活かした、大崎ならではの田園都市の実現



- 食と農を支える地域づくり
- 防災・減災への取組カーボンニュートラルへの対応
- ネイチャー・ポジティブ（生物多様性）への対応

世界農業遺産の資源と価値の継承



- マルチステークホルダーの参画
- 世界農業遺産が住民のWell-beingの源泉

仙台圏及び首都圏等からの人の流れをつくる



- 食とり滞在型ツーリズムの確立
- 移住定住の促進

安定した雇用の創出



- 多様な担い手の確保・育成
- 多様な働き方の推進

人口動向，土地利用・地域経済の現状

- ◆人口動向：総人口は2020年と比べ2030年に約96%，2045年には約83%になると予想され、減少傾向が継続、担い手の不足へ深刻な影響をもたらす。
- ◆土地利用：2015年における土地利用状況は、農地23.5%，森林53.9%，宅地5.2%。宅地が増加する一方、農地は減少している。
- ◆地域経済：基幹産業と言われる農業がメインの第1次産業では、就業人口（5,410人：8.2%）や総生産額（112億2千2百万円：2.1%）とも減少傾向にある。

自治体SDGsモデル事業の概要

宝の都（くに）おおさき・宮城県大崎市



世界農業遺産（GIAHS）とSDGs目標を連動させ、喫緊の諸課題に対し、多様な主体の参画により、カーボンニュートラルな食料生産、生物多様性の向上（ネイチャー・ポジティブ）、グリーンインフラによるレジリエンス、GIAHSツーリズムなどに関し、「人」、「知恵」、「資源」のつながりの再構築により、新たな付加価値を創出し、持続可能な地域づくりを実現する。

経済



課題A…農業農村の価値の向上と可視化

- 取組① グリーン化栽培の推進（スマート化＋環境負荷低減）
- 取組② 地域農産物等のブランド化
- 取組③ 農泊を軸としたGIAHSツーリズムの実施
- 取組④ 青年就農者など次世代の担い手育成強化

デジタル化（スマート化＋環境負荷低減）
ブランド力強化（GIAHSブランド）
担い手育成



世界農業遺産の
認証品（野菜）



地元高校での
担い手育成



生きものモニタリング調査

統合的な取り組み

大崎耕土GIAHSの生物多様性（ネイチャー・ポジティブ）を活かした田園都市創生事業
■大崎G I A H S ・ S D G s
プラットフォーム形成事業
■大崎ネイチャー・ポジティブ
定量化事業

社会



課題B…市民の参画意識の向上

- 取組① 大崎市流地域自治組織による課題解決手法の探求
- 取組② GIAHS学習プログラムの推進
- 取組③ 企業CSR、CSVとの協働による資源保全活用プログラムの実施
- 取組④ 応援組織（首都圏ふるさと会・同窓会組織）を通じた関係人口の創出

市民協働，GIAHS学習，企業CSV

環境



課題C…水田農業の環境影響の定量的把握

- 取組① 有害鳥獣対策による農村環境の保安全管理
- 取組② 有機農業・グリーン化（スマート化＋環境負荷低減）の拡大
- 取組③ 田んぼの生きものモニタリングシステムの構築
- 取組④ グリーンインフラを活用した防災・減災機能の発揮
- 取組⑤ 大崎耕土の居久根景観の保全と活用

カーボンニュートラル，生物多様性向上
有機農業・グリーン化，防災・減災



地域で守る
伝統的な水管理



屋敷林「居久根」での
GIAHS学習



大崎の象徴・居久根の保全







三側面をつなぐ総合的取組①

(全体最適化による総合的取組要素の概要)

宝の都(くに)おおさき・宮城県大崎市



- 世界農業遺産(GIAHS)とSDGs目標を連動
- 「人」(ヒューマン), 「知恵」(デジタル), 「資源」(グリーン)のつながりによる新たな価値付け
- 多様な主体が共にGIAHSを支え, 経済・社会・環境が循環する仕組み

	人	知恵	資源	総合的 取組要素
 経済	 担い手の育成 ◎ヒューマン	 担い手不足に対応するためのデジタル技術の活用 ◎デジタル	 大崎耕土農産物ブランド化 ◎グリーン	◎大崎産米のブランド力強化 ◎担い手が育成できる環境づくり
 社会	市民協働 多様な主体の参画 ◎ヒューマン	GIAHS学習プログラムの推進 ◎ヒューマン ◎デジタル	企業協働による資源保全活用 ◎グリーン	◎多様な主体が参画できるプラットフォームの構築 ◎GIAHSに関する学びの体系化
 環境	生きものモニタリングシステムの構築 ◎ヒューマン ◎デジタル	有機農業・グリーン化の拡大 ◎グリーン ◎デジタル	居久根景観の保全と活用 ◎グリーン ◎ヒューマン ◎デジタル	◎有機農業のスマート化 ◎生物多様性の価値を評価する仕組みづくり(価値の共有による意義付け)

キーワード：ネイチャー・ポジティブ (生物多様性)

三側面をつなぐ総合的取組②

宝の都（くに）おおさき・宮城県大崎市



大崎耕土GIAHSネイチャー・ポジティブ（生物多様性）を活かした田園都市創生事業

- 屋敷林の樹木データ分析による**生物多様性の定量化**及び**農業グリーン化**，**スマート化実証**による関連性の検証を行い，本市の価値基盤となる**生物多様性の可視化**と**住民well-beingとの関連性**を明確にする。
- GIAHSとSDGsに関する**プラットフォーム**を形成し，多様な主体が共にGIAHSを支え，**経済・社会・環境が循環する地域づくりモデル**を構築する。



三側面をつなぐ総合的取組③

(2つの取組と構成プロジェクトの概要)

宝の都(くに)おおさき・宮城県大崎市



取組1

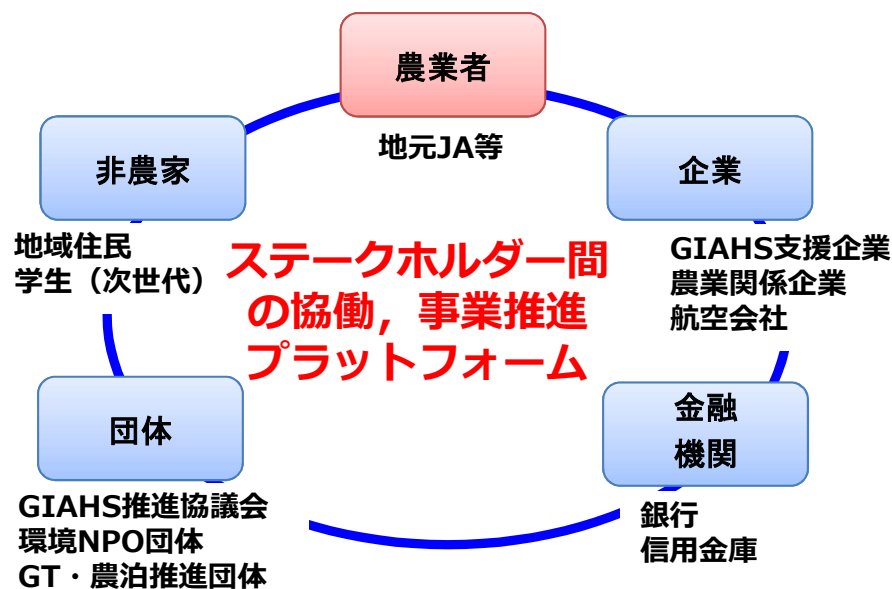
大崎GIAHS・SDGs プラットフォーム形成事業

- 二次的自然環境の持つ価値への理解と、共に支えることの重要性に対する理解醸成に向けたプラットフォーム形成を軸
- GIAHS・SDGsの情報発信と普及啓発
- 世界農業遺産ブランド認証制度におけるコト(アクション)認証の制度構築
- 有機農業の仕組みづくり

取組2

大崎ネイチャー・ポジティブ 定量化事業

- 屋敷林の樹木データ分析による生物多様性の定量化及び農業グリーン化、スマート化実証による関連性の検証
- 本市の価値基盤となる生物多様性の可視化と住民well-being(居住幸福度が高まること)との関連性を明確にする。



世界農業遺産「大崎耕土」のランドスケープ 屋敷林「居久根」

大崎耕土の全域に広がる屋敷林「居久根」は先人からの知恵が詰まっており、人々の暮らしを守り、多くの生きものを育てている。大崎市には約13,500戸もの屋敷林があり、1戸当たり100本とすると、そこには約135万本以上の樹木が存在している。



三側面をつなぐ総合的取組④

宝の都（くに）おおさき・宮城県大崎市



取組 1

大崎GIAHS・SDGsプラットフォーム形成事業

プロジェクト 1 大崎GIAHS・SDGs アカデミープロジェクト

①学習プログラムの企画・運営

- GIAHS・SDGsのつながりを学ぶ場、プログラムづくり
- 生物多様性保全への市民参加枠組みの更なる普及



②市民参加型モニタリングの開催

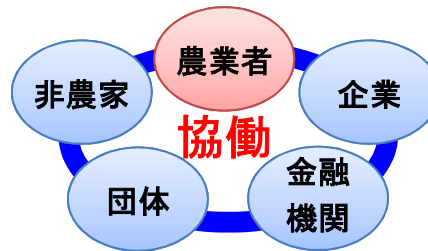
- 地域住民や学生などによるアカトンボの水田・「居久根」利用のモニタリング調査



プロジェクト 2 プラットフォーム プロジェクト

①プラットフォームの構築

- プラットフォームの設立
- マルチステークホルダー会議・ワークショップの開催



②普及啓発事業

- 庁内及び市民向け研修会の実施
- パンフレット等の作成と配布

③普及啓発イベントの開催フォーラム、展示等



④推進計画の検討

プロジェクト 3 世界農業遺産ブランド 認証制度プロジェクト

①認証品プロモーション（生物多様性上の価値を中心とするもの）

- 認証品の生産者と消費者の交流（農作業体験（モニタリング調査）、映像などを活用したオンラインツアー）



②認証品目の拡大とコト（アクション）認証の制度設計

- 環境に配慮した保全活用のアクションを認証する制度の検討



三側面をつなぐ総合的取組⑤

宝の都（くに）おおさき・宮城県大崎市

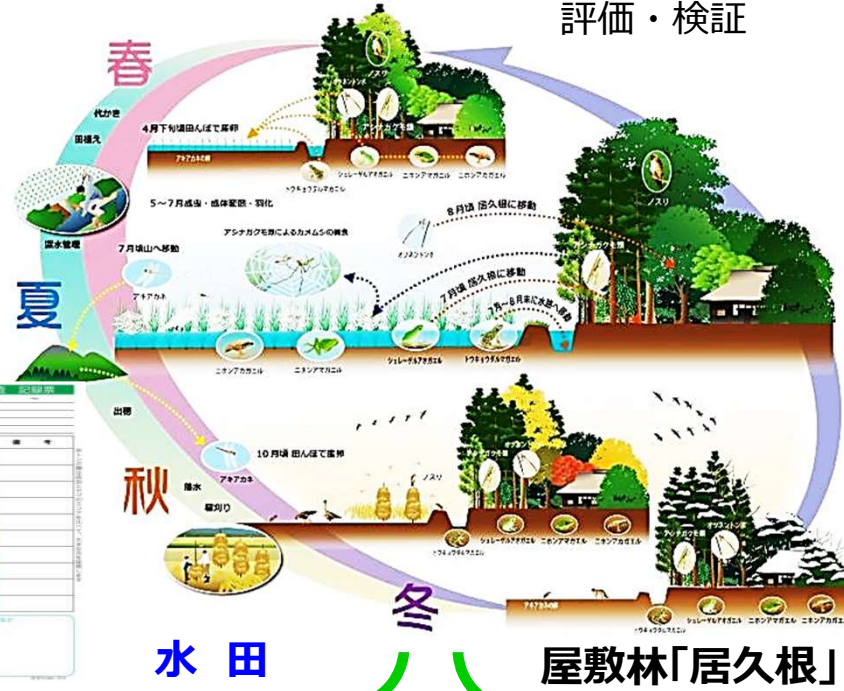


取組 2

大崎ネイチャー・ポジティブ定量化事業

プロジェクト 2 有機農業・グリーン化推進プロジェクト

- ①スマート農機実証（アイガモロボによる抑草，リモコン畦刈り機など）
 - 有機農業・スマート化による環境負荷低減を対象区とした定量化調査
 - 市民参加モニタリングとの連携
- ②評価・検証（田んぼの生きものモニタリング）
 - 慣行栽培と有機農業とのネイチャー・ポジティブ比較・評価
 - 有機栽培+居久根の価値評価



プロジェクト 1 屋敷林「居久根」及び水田の生物多様性の定量化・評価プロジェクト

- ①調査計画の策定
 - 本市の持つ生きもの調査ノウハウの転用と新たな調査視点の検討
 - 先行取組事例の研究
 - モデル地区での実証・評価・検証

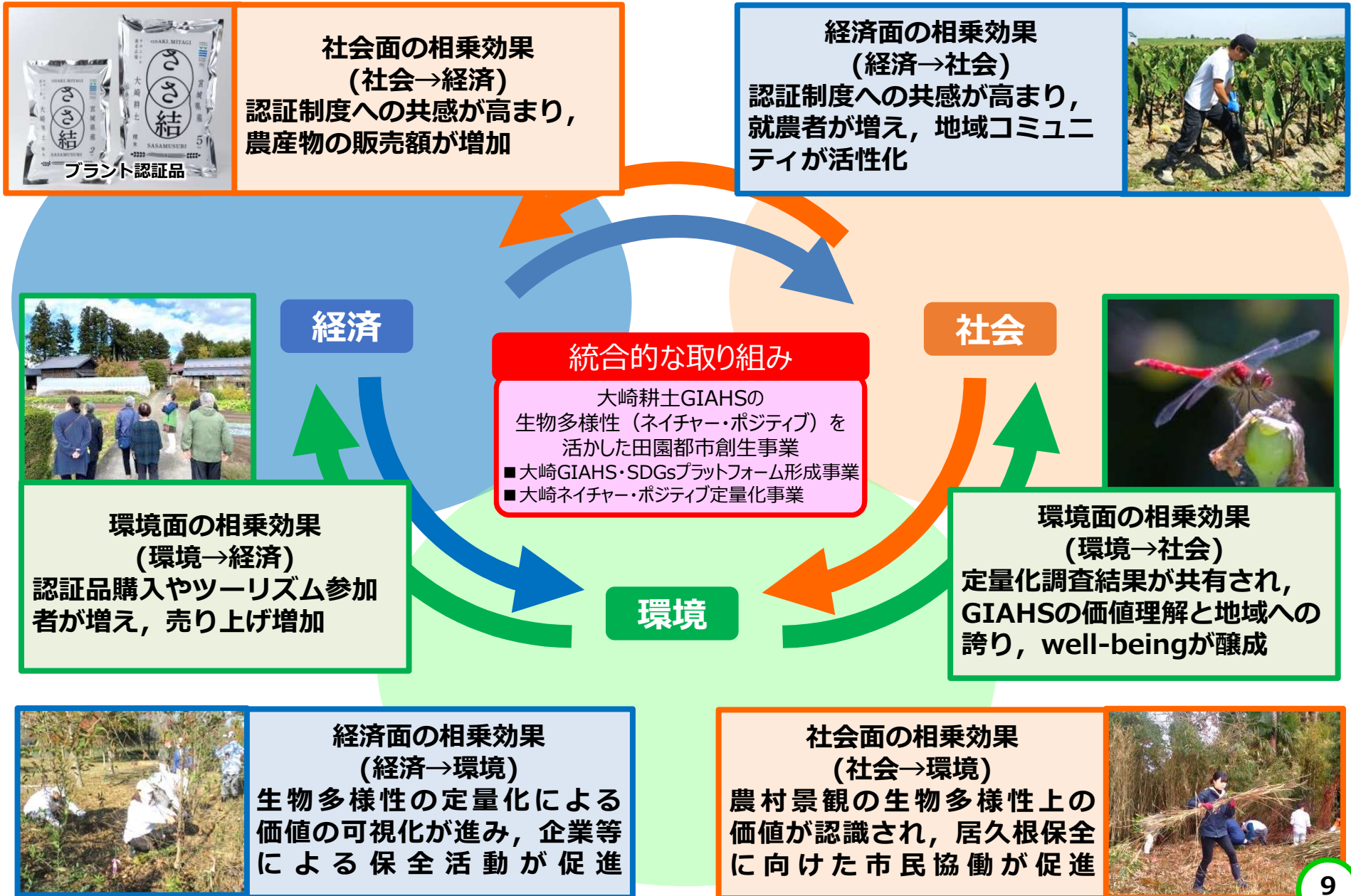


- ②調査理解促進
 - 市民、企業・団体向けの調査
 - 調査意義に関する理解促進



経済, 社会, 環境の各側面の相乗効果 (統合的取組によって生じる相乗効果)

宝の都 (くに) おおさき・宮城県大崎市



自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

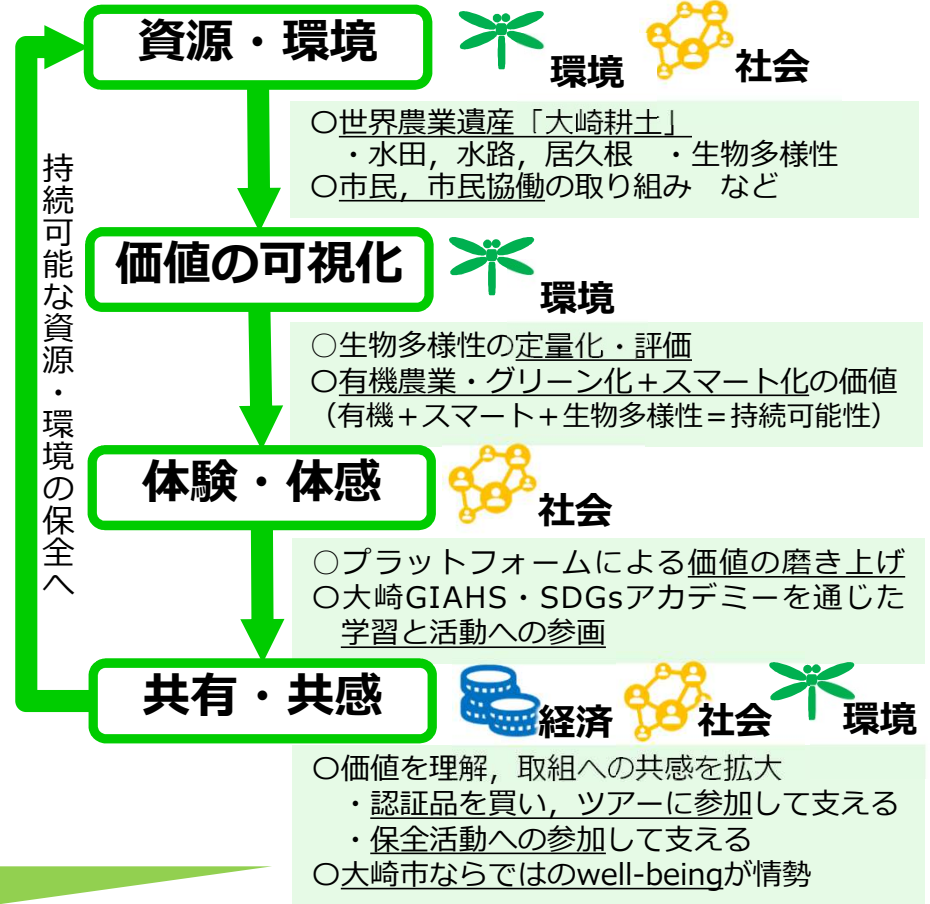
宝の都（くに）おおさき・宮城県大崎市



事業実施スキーム




自律的好循環のイメージ



将来的な自走に向けた取組

- 本事業の推進団体やステークホルダーに共有を図り、成果の活用に向けたノウハウ提供と支援の実施
- 世界農業遺産ブランド認証制度における企業・団体等の活動を認証する「コト認証」を制度化し、ステークホルダーや関連事業者とのビジネスマッチングを推進

SDGsの達成に貢献する田園都市 宝の都（くに）・おおさき の実現へ



あなたたち人間と 自然に生きるわたしたちは この地球の同じ仲間です。
自然と文明は 決して調和できないことはないのです。
この素晴らしい あるべき姿が この蕪栗沼で
わたしたち渡り鳥と あなたがた人間が
協力しあいながら 今もやりつつあることなのです。

『渡り鳥からのメッセージ』

作・絵： 葉 祥明(2012)